

令和3年度 第4回 二川教育全体研修会のまとめ

【両城中学校校区研究主題】

自ら進んで学び合い、認め合う児童生徒の育成

～「自ら考え表現する授業づくり」と「自信を育む教育活動の充実」を通して～

【 日 時 】	令和3年10月29日（金）	
【 指導助言 】	東京大学名誉教授・帝京大学中学校高等学校長補佐 市川 伸一 先生	
【 研究授業 】	授業参観① 中1 保健体育科 「球技・ゴール型 サッカー」	川下 竜矢
	授業参観② 中3 国語科 「和歌の世界 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」	森田 智美
	研究授業 中1 英語科 「Unit6 A Speech about My Brother」	磯方 陽花

1 授業風景



2 指導講話「主体的・対話的で深い学び」の創造

～メタ認知を育てる「教えて考えさせる授業」の工夫～ （市川 伸一 教授）

(1) 授業参観者として必要な「心構え」

- ・「生徒の気持ち」で授業を参観する
- ・同じ指導内容で「自分が指導者として授業するとしたら〇〇する」という考えを持つ

(2) 今後の授業展開において

- ・学び方を育てる必要性がある
(例) つまずいたら…定義に戻る、手を動かす
- ・「授業を使って学ぶ」という自立的な学習者を育成する
- ・「予習→授業→復習」という学習スタイルを確立させる
(例) 難しい内容を考えるとき「予習」を入れる
→分からないことを見つけたときメタ認知につながる
→授業への理解度が変わってくる
- ・技能教科ではどのように授業展開する？
 - ①ポイントやコツを〔教える〕。
 - ②教えた知識がついたか〔確認〕 ※ペアで見せ合う、ペアで評価し合う。
 - ③実際にさせることで〔深化〕につながる。 ※頭で分かったことが体等の動きや表現につながるかをみとる。

(3) 今後、本校で取り組んでいくこと

- 普段の授業からカードを使って授業実践する
- 理解深化課題と自己評価(ふりかえり)のつながりについて
分かったこと、わからないことに加えて、「さらに考えてみたいこと」「さらに調べてみたいこ

と」がふりかえりで書けるような「理解深化課題」を設定する。

- ・・・1コマの知識を持った上で出てくるので深い問いにつながることもある。

○自己評価(ふりかえり)について

- ・毎時間の実施は困難であると考えられるが、熟考する時間を確保する。
- ・次の学びへつながる新たな問いや深めていきたい問いを書かせる。

(4) 研修会の協議シート



3 授業参観ウィークを終えて

(1) 期 間 令和3年10月18日(月)～29日(金)

(2) 授業者の先生への気づきやアドバイスなどの紹介(抜粋)

○国語科

- ・推敲という作業を生徒が根気強く取り組んでいる姿が印象に残りました。
- ・グループで文章をまわしてアドバイスを付箋に書いていく方法が参考になりました。

○社会科

- ・民事と刑事の違いがよくわかる導入でした。
- ・クイズのような展開が生徒の気持ちを授業に向かわせるよい手法でした。
- ・オープンエンドな問いで、納得解を出す過程がとても楽しくてよい。でも、最後はルールによってジャッジする過程の大切さも学ぶことができるよい題材でした。
- ・グループに分かれて裁判形式をとったときに、役割分担をもう少し明確にすると、より分かりやすかったと思います。

○数学科

- ・スピード感があり、メリハリのついた展開をされていてとてもよかったと思います。
- ・深化問題は、難しいですがとてもよい問題であったと思います。

○理科

- ・板書が非常に構造的で非常にわかりやすく、生徒も学びを振り返ることができる。
- ・実験とワークシートを活用した学びであるが、既習内容を参考に学びを深めていた。
- ・ICTを活用した成果物の提出など、効果的にICTを活用している。
- ・授業のルールが徹底されていて素晴らしいと思いました(「間違えてもいい」という声掛け、実験中はイスに座らないなど)。

○英語科

- ・授業初めの「今週何をするのか?」のやりとりが、とても聞き取りやすく、かつ生徒もよく会話ができおり、日ごろの指導の成果であると感じました。
- ・ワークシートが丁寧に作られており、学びを振り返るにもとても効果的であると感じました。
- ・生徒が自ら考え、発表できるところまで授業を展開され理解深化された点が良かったです。